

## ■ ネットワーク・トラフィック状況とそのデータを収集するコレクタのマシン稼働状態をRTViewで可視化して監視し、リアルタイムにアラート

NTTアドバンステクノロジー株式会社 様 ご紹介

### はじめに

NTT グループの技術的中核である NTT アドバンステクノロジー株式会社(以下、NTT-AT)様は、NTT 研究所をはじめとした世界の先進技術と連携し、顧客や市場、社会のニーズをとらえた価値に変換する「Integrated-Value Provider」です。事業範囲は幅広く、ネットワークやシステムなどのIT基盤(インフラ)を運用管理するためのさまざまなプロダクトやソリューションも提供されています。

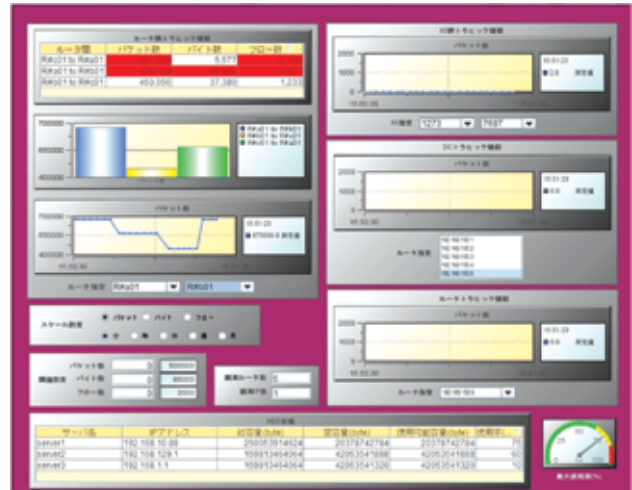
同社様において、米 SL 社の RTView を使用し、短時間で既存のリアルタイム・データを可視化して監視できるようにされた事例を、ご紹介いたします。

### RTView による可視化と監視の概要

たとえば、各拠点に設置された多数の基幹系ルータのネットワーク・トラフィック・フロー情報を収集しているコレクタからのトラフィック状況と、そのコレクタが運用されているサーバ・マシンのディスク・スペース、メモリ使用量、CPU 使用率などの稼働状態を、RTView でリアルタイムに可視化して表示し、アラートを生成します。

監視画面では、データセンターやルータごとに、パケット/バイト/フローの単位で選択して現在のトラフィック状況を視覚的に確認ことができ、またボトルネックなどの状態を赤くアラート表示するとともに、関係者にメールを自動的に送信します。

JMS や SQL などの標準的なデータ接続アダプタを持っている RTView では、クリック&ポイントのビルダーを使って、棒グラフや折れ線グラフ、テーブルなどのオブジェクトに既存のデータを接続設定して画面構成し、アラートもしきい値や対応アクションを対話的にカスタム設定するだけで、既存の監視データを簡単に可視化できます。



RTView は、各種のデータ接続アダプタならびにカスタム・アダプタによって、任意のリアルタイム・データにダイレクトに接続し、インメモリで高速に集約して表示します。監視ダッシュボード画面と部品はもとより、画面上でのデータ集約と分析、アラートと対応アクション、過去の履歴データを任意のデータベースに格納できる高度なヒストリアンは、すべてビルダーでカスタム設定できる監視ツールです。そして、アプリケーション、タブレット、または Web 2.0 シンクライアント運用を透過的に選択できます。

### おわりに

RTView では、既存の監視・管理ツールやデータを収集するコレクタなどにすぐに接続し、リアルタイムな可視化と監視システムをカスタム・アラートや自動対応アクションとともに、容易に構築できます。

- NTT アドバンステクノロジー株式会社様について:

<http://www.ntt-at.co.jp/>